事業名　多良間村自然文化継承事業　『郷土資料整理活用業務』
(R元年度)

資料概要

※R元年度事業において翻刻・現代語訳作業をおこなった資料についての概要説明ページです。

次のページへ

資料概要

R1年度多良間村自然文化継承事業 『郷土資料整理活用業務』

<家譜資料>

#1-4 浦渡氏系図家譜支流 塩川村大手屋 塩川仁也
#2-2 向脩氏系図家譜 支流(池城)
#2-3 向脩氏系図家譜 支流(多良間)
#2-6 向脩氏系図家譜 支流(並里 花城)
#2-9土原氏系図家譜 支流(村山)

<組踊り資料>

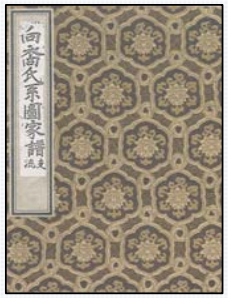
#2-16 忠臣仲宗根豊見親組
#2-18 忠臣組

<古文書資料>

#2-25 童子教訓書

#1-4 浦渡氏系図家譜支流
塩川村大手屋 塩川仁也

#2-2 向脩氏系図家譜
支流(池城)



#2-3 向脩氏系図家譜
支流(多良間)

#2-6 向脩氏系図家譜
支流(並里 花城)

#2-9 土原氏系図家譜
支流(村山)

#2-16 忠臣仲宗根豊見親組

#2-18 忠臣公之組(原本)

#2-25 童子教訓書

資料概要

#1-4 浦渡氏系図家譜支流　塩川村大手屋 塩川仁也

★『浦渡氏系図家譜支流』は、多良間船筑常基から数えて6代目となる仲筋仁也常為の息子である仲筋仁也常易を系祖として作成された家譜である。史料の表題部分には、「浦渡氏系図家譜支流　塩川村大手屋塩川仁也」とある。系図部分には、代々の男性・女性が記され、家譜部分には、男性の事績などが記されている。

家譜内には、後に加筆（福山和夫氏）されたペン書きの記載や書き継ぎがみられる。

今回の作業では前近代における史料記載部分を翻刻するという方針に従い、現代において加筆された記載の翻刻は省いた。系図には常易から続く男性・女性の名前が生没年や父母などの記載とともに記されている。

家譜には代々の男性の生没年や元服した年、就任した役職などが列挙される。記事は康熙33（1694）年生まれで系祖とされた仲筋仁也常易から道光30（1850）年生まれの下地仁也常美までを収録している。

最初のページへ

資料概要

#2-2 向脩氏系図家譜 支流(池城)

★表題に「向脩氏系図家譜支流」とあり、鉛筆書きで「池城」と記されている。内題には「向脩氏系図家譜支流」のほかに「故塩川與人嫡子塩川村〔　　〕」（後半部分は史料破損のため判読不可能）とある。全体を通して行頭に朱点が捺されており、朱字による追記・訂正も見られる。また、印影が見られないため写本の可能性がある。

史料の前半は和系格の系図、後半は個人の記事からなっている。系図部分は、男性には元服後の名前と位階名・童名などが、女性には名前、嫁ぎ先、母方祖父の情報、生没年などが記されている。

家譜は、雍正5年（1727）に生まれた「尚氏浦添王子朝満四代下地親雲上朝脩四代荷川取與人朝與三男」であり「朝松　塩川與人」から始まる。最後は、光緒15年（1889）に生まれた「宇増呂」（童名）までの記録である。

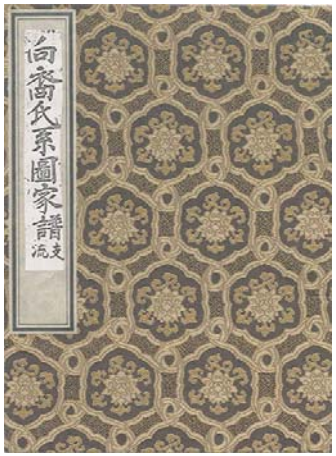
記事はまず、男性一人につき、位階と元服後の名前、童名、父母の情報、生年月日が書かれ、それに続いて王代ごとに、元服に関する記事や、多良間島での公務に関する記事といった個人の業績や履歴が列挙されている。

また、冒頭には家督相続に関連する文書とおぼしき史料も収録されている。

最初のページへ

資料概要

#2-3 向脩氏系図家譜 支流(多良間)



★表題に「向脩氏系図家譜支流」とある。また、内題には朱字で「向脩氏系図家譜支流」とあり、「地系」と記されている。全体を通して印影が見られないため、写本の可能性もある。また全体的に行頭に朱点や墨点が見られる。史料の前半は和系格の系図、後半は個人の記事からなっている。系図部分は、男性には元服後の名前と位階名・童名などが、女性には名前、嫁ぎ先、母方祖父の情報、生没年などが記されている。

家譜は、萬暦35年（1607）に生まれた下地親雲上朝脩の四男である「朝平　仲筋目差」から、光緒9年（1883）生まれの「蒲」（童名）までの記事が収録されている。記事は、まず男性一人につき、位階と元服後の名前、童名、父母の情報、生年月日が書かれている。つづいて、王代ごとに、元服に関する記事や、多良間島での公務に関する記事といった個人の業績や履歴が列挙されている。また、冒頭には家督相続に関連する文書とおぼしき史料も収録されている。

最初のページへ

資料概要

#2-6 向裔氏系図家譜 支流(並里 花城家)

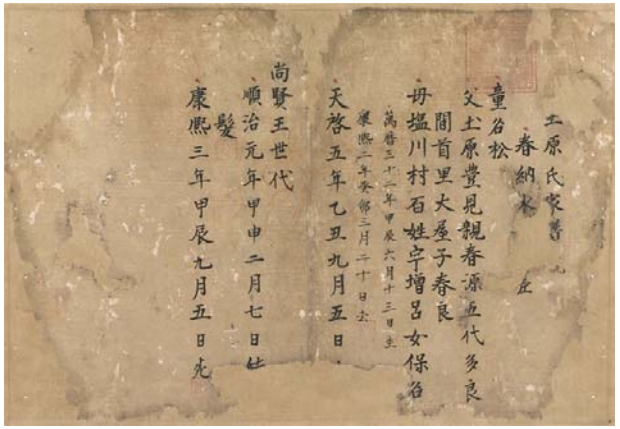
★ 表題に「向裔氏系図家譜支流」とあり、鉛筆書きで「並里(花城家)」と記されている。全体を通して印影が見られないため、写本の可能性もある。史料の前半は和系格の系図、後半は個人の記事からなっている。系図部分は、男性には元服後の名前と位階名・童名などが、女性には名前、嫁ぎ先、母方祖父の情報、生没年などが記されている。

家譜は、萬暦10年（1582）に生まれた朝裔の子である「朝正　塩川與人」から、光緒24年（1898）生まれの「朝明」までの記事が収録されている。記事はまず、男性一人につき、位階と元服後の名前、童名、父母の情報、生年月日が書かれている。つづいて、王代ごとに、元服に関する記事や、多良間島での公務に関する記事といった個人の業績や履歴が列挙されている。家譜の中には「口上覚」などの一次史料の引用も掲載されている。また、沖縄県設置後に書き込まれた記述（住所、名前など）もある。

最初のページへ

資料概要

#2-9　土原氏系図家譜 支流(村山家)

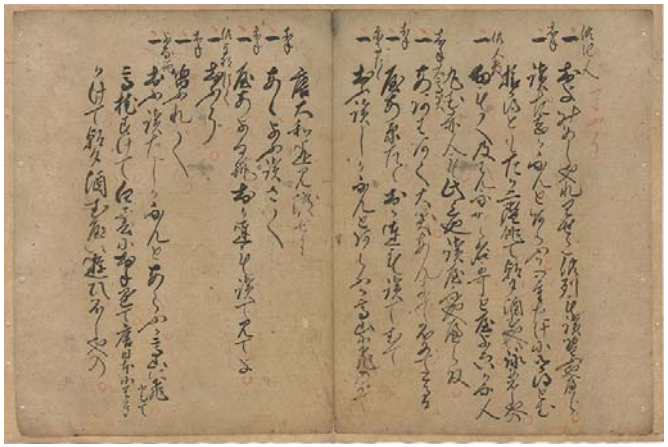


★作成年代：18世紀前半－19世紀後半
★『土原氏系図家譜支流（村山家）』は、土原豊見親から数えて５代目となる多良間首里大屋子春良の息子で水納目指春納を系祖として作成された家譜である。史料の表題部分は失われており、系図部分も欠損が多い。家譜部分については、ほぼ欠損はみられない。
系図には春納から続く男性・女性の名前があったと思われるが、欠損が多く家譜部分の記載を手がかりに系図を復元し理解する必要がある。家譜には代々の男性の生没年や元服した年、就任した役職などが列挙される。記事は天啓5（1625）年生まれで系祖とされた水納目指春納から咸豊11（1861）年生まれの多良間尓也春恒までを収録している。

最初のページへ

資料概要

#2-16　忠臣仲宗根豊見親組

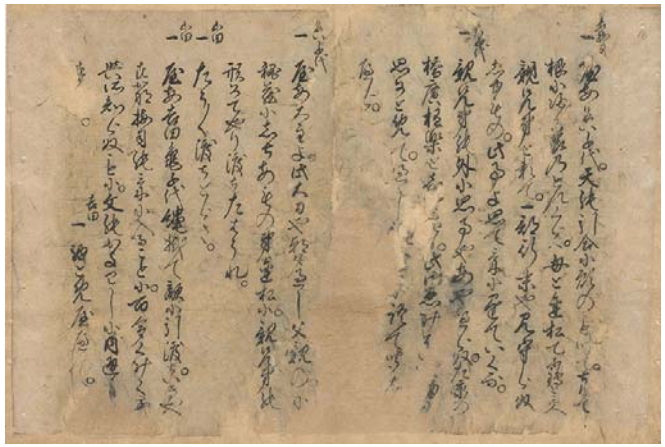


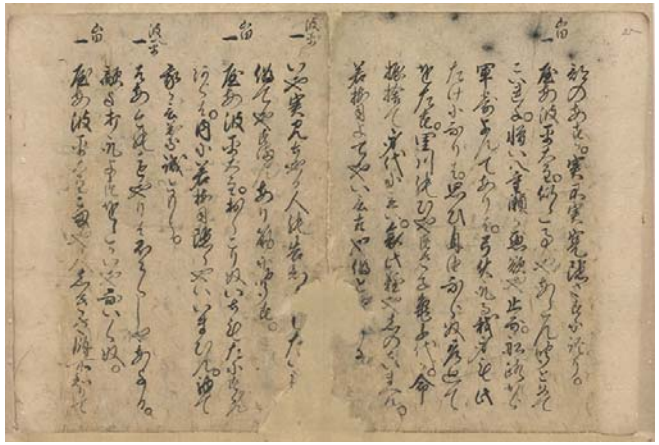
★作成年代：琉球王国時代末期（筆写年代不明）
★作者：未詳
★この組踊作品は多良間島にしかみられない作品である。首里の国王の命を受けて、宮古の仲宗根豊見親組と村々の豊見親たちが力を合わせ、与那国島の鬼虎を倒すという内容である。筆写年など不明なことが多いが、詞章組み立て方は、外の近世の作品と類似しており、近世に創作された作品であることが指摘できる。
　また、一部「二童敵討」を模写した場面（あふがまこいがまに衣装を渡す場面、酒盛りの場面で鬼虎が酒を普段飲まないが、二人に酌をされて呑むという場面）などがみえ、作者の組踊に対する知識の深さが垣間見られる。敵討の場面の前に行われる鬼虎の酒宴では、歌を詠みあい、その優劣を面白く表現している。このような場面は、現存する古典組踊の仇討には見られない、オリジナリティーあふれる演出、趣向である。

最初のページへ

資料概要

#2-18　忠臣組



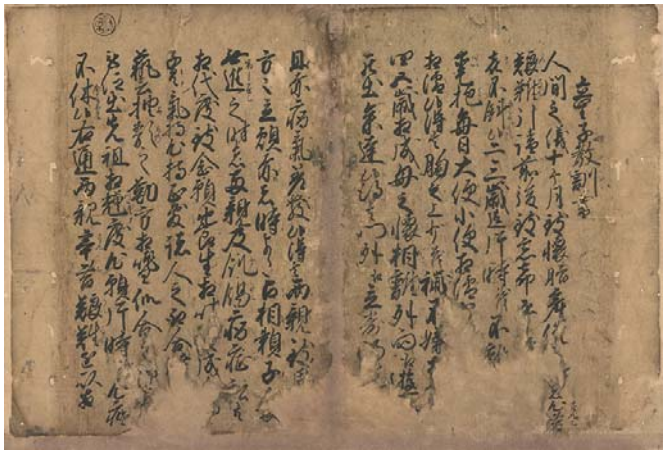


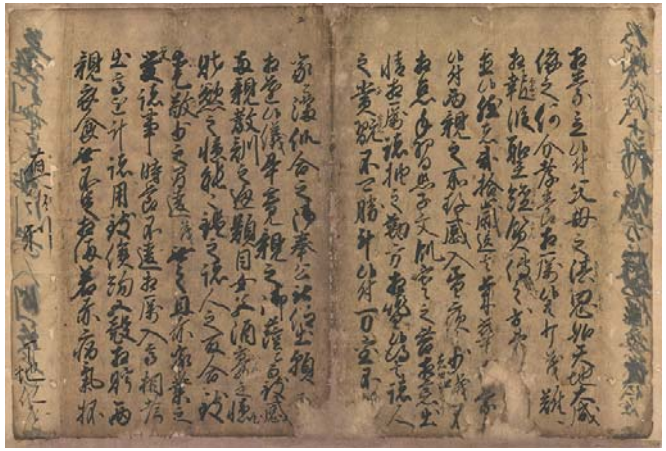
★作成年代： 琉球王国時代末期（筆写年代不明）
★作者：辺土名親雲上
★この組踊作品は辺土名親雲上の作と伝わっている。別名は「忠臣身替」「忠臣身替りの巻」などで、県内各地で上演されている作品である。初演は冊封の時で、1800（嘉慶5）年である。写本には書写年代が記されていないが、恐らく近世末期の書写で、沖縄県内に残る「忠臣身替」の写本の中では古いものと言えよう。本資料はところどころ残欠が見られるが、内容はほぼ完全にわかるものである。また、資料名に「忠臣公の組」などとあるが、資料は「忠臣組」である。資料名の統一をした方が良いと思われる。
　「忠臣身替」という作品は県内でも多く上演されているとともに、その作品名も地域によって様々である。また、本資料には他の「忠臣身替」の組踊台本にはみられない「間の者あか」の場面が見られる。本資料を基に、他地域や冠船関係の台本と校合することで、本資料の価値がいっそう上がると思われる。

最初のページへ

資料概要

#2-25　童子教訓書





★表題に「童子教訓書」とあり、所有者名である「砂川下地二男下地仁屋／真佐口」（口は史料破損のため判読不可能）が記されている。
内容は、子育てに関する記述で、儒教的な孝を実践できる子どもを養育するための方法が示されている。冒頭は、２、３歳や４、５歳など年齢別の養育に関する内容が示され、子どもが病気にかかった際の対処法など具体的な記述も見られる。中盤からは王府への奉公に関する記載があり、後半には養育に関する心得が箇条書きで記されている。
　なお、子どもが病気の歳には「時・よた」に依頼するという記述があったり、王府への奉公を示唆する内容があるため、中国や日本の書というよりも琉球の書である可能性が強いと思われる。また、「心苦」のルビを「すんこ」と記したり、「飢渇」に「きかち」とルビを振るなど、当時の読み方が分かる貴重な史料である。本文末にある琉歌は、本文を踏まえた内容であり、本文との関連についての検討が求められる。

最初のページへ